

令和6年度大阪府ガンカモ類等鳥類生息調査の結果について

ガンカモ類生息調査（全国ガンカモ一斉調査）は、ガン、カモ、ハクチョウ類の冬期生息状況の把握を目的として、1970年（昭和45年）から毎年1月に実施されています。環境省の呼びかけで全国の都道府県が一斉に実施するもので、今回が55回目の調査となります。今回、大阪府の調査では、カモ類が36,167羽観察されましたが、ガン類・ハクチョウ類は観察されませんでした。

また、カワウ及びオオバンが増減傾向を把握するため、調査の際、これらの鳥の観察も行いました。

【大阪府における調査の概要】

- 1 調査年月日 令和7年1月5日～1月15日
- 1 調査年月日 令和7年1月4日～1月22日
- 2 調査地 453地点
ガンカモ類が生息すると予測される府内の池沼、河川、
海岸等
- 3 調査員 延べ615名
日本野鳥の会大阪支部会員等
- 4 調査方法 各調査地において種別の個体数を目視によりカウント
双眼鏡、望遠鏡、カメラ、カウンター等を使用

5 調査結果

(1) カモ類

カモ類は、377地点で21種34,809羽が観察されました。

総観察数は昨年度から1,358羽(約4%)の減少となりました。〔図1〕。

観察数を調査地別にみると、淀川(府境～河口)、堺第2区人工干潟周辺、北港、神崎川、平林貯木場の順に多く観察されました〔表1〕。

種別の観察数では、ホシハジロ、ヒドリガモ、スズガモ、キンクロハジロ、ハシビロガモ、カルガモ、コガモの順に多く観察されました〔図2〕。種別観察数の近年の傾向については〔表2、図3、図4〕にまとめています。

また、環境省が【絶滅の危険が増大している種】(絶滅危惧Ⅱ類)として指定しているツクシガモおよびトモエガモが観察され、【評価するだけの情報が不足している種】(情報不足)として指定しているアカハジロおよびオシドリが観察されました。

ツクシガモは40年連続、トモエガモは22年連続、オシドリは調査開始以来56年連続の観察です。

- ・ ツクシガモは、ヨーロッパやユーラシア大陸中央部に生息し、冬期には東アジアなどへ渡る大型のカモです。日本では、主に九州北部の干潟などに飛来し、近年大阪においても、これらの地域に次いで観察数が多くなっています。
- ・ トモエガモは、冬鳥として本州以南の日本海側に多く渡来し、太平洋側では少なく、年によっては何ヵ所かで数百羽以上の群れが見られます。湖沼、池、河川などに生息しています。
- ・ オシドリは、主に本州中部地方以北で繁殖し、冬は西日本で越冬するものが多いことが知られています。
- ・ アカハジロは、まれな冬鳥として湖沼や池に渡来し、単独でキンクロハジロやホシハジロの群中にいることがあります。

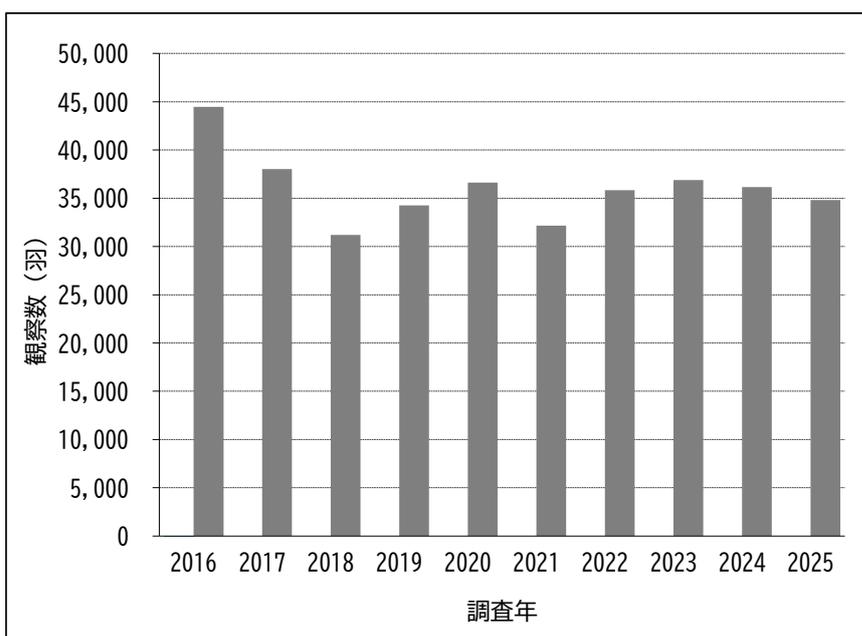


図1 カモ類の観察数の推移

表1 カモ類の調査地別観察数

調査地点・地域	観察数(羽)
淀川全域	8,483
堺第2区人工干潟周辺	1,923
北港(北地区)	1,448
神崎川	1,237
平林貯木場	1,106
その他	20,612
合計	34,809

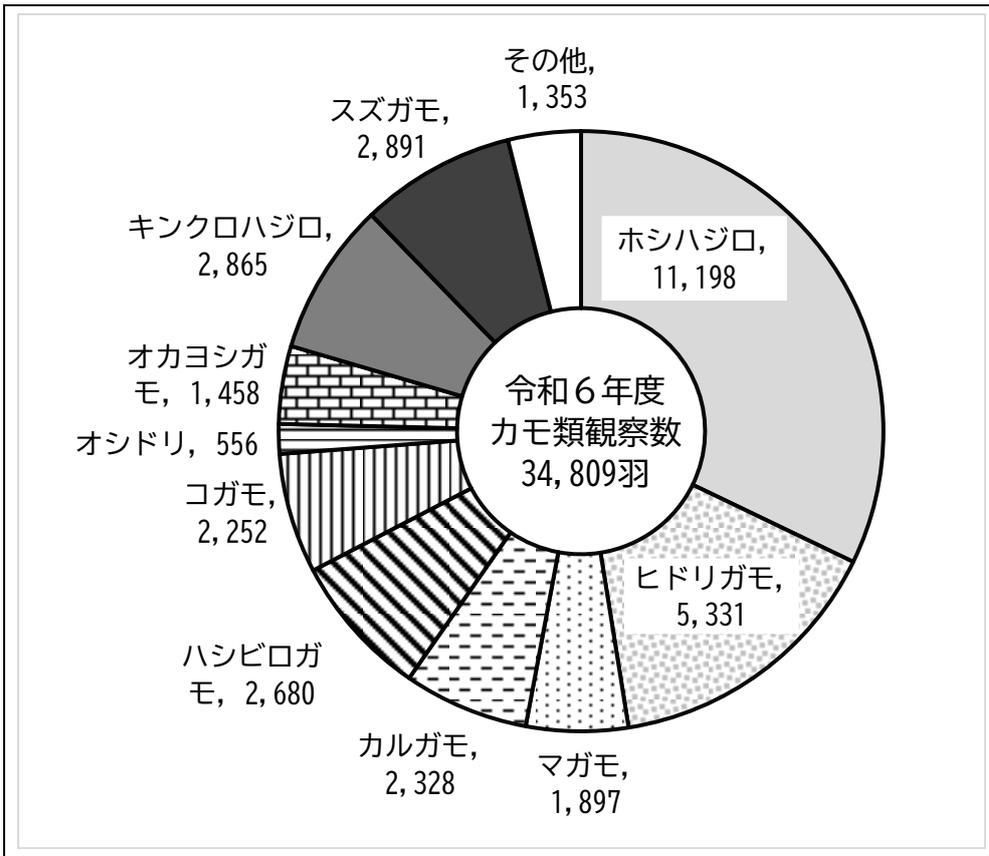


図2 カモ類観察数の種別内訳

表2 カモ類の観察数の近年の傾向

種名	傾向	備考
ホシハジロ	減少	府内で最も多く観察されるカモ類。今年度は昨年度より減少した。調査年によって変動が大きい。長期的には減少傾向にある。
ヒドリガモ	減少	昨年度に続き今年度も減少した。長期的に減少傾向にある。
マガモ	安定	昨年に続き今年度も減少した。長期的にみると2,100羽程度で推移している。
カルガモ	安定	昨年度、今年度と連続して減少したが、長期的には2,000～3,000羽程度で推移している。
ハシビロガモ	安定	2020年の約3,000羽からわずかずつ減少しているが、おおむね安定して推移している。
コガモ	安定	安定して2,500羽程度で推移していたが、今年度は減少した。
オシドリ	安定	2023年に1,000羽を超えたが、昨年度、今年度と減少した。
オカヨシガモ	増加	2016年以降増加概ね毎年増加している。
キンクロハジロ	減少	昨年度に続き今年度も減少した。長期的にも減少傾向にある。
スズガモ	安定	2018年以降は変動しながらも、1,000～2,000羽程度で推移していたが、今年は大きく増加し、約3,000羽となった。

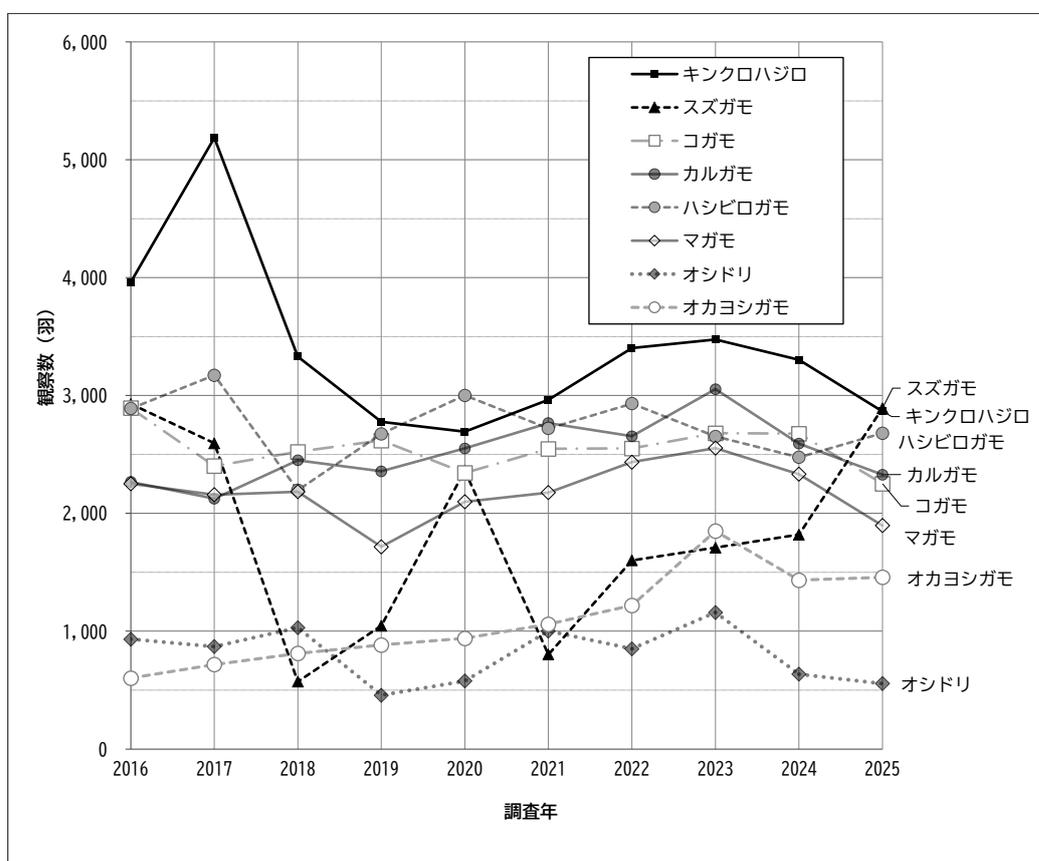


図3 主要カモ類(ホシハジロ、ヒドリガモを除く)の観察数の推移

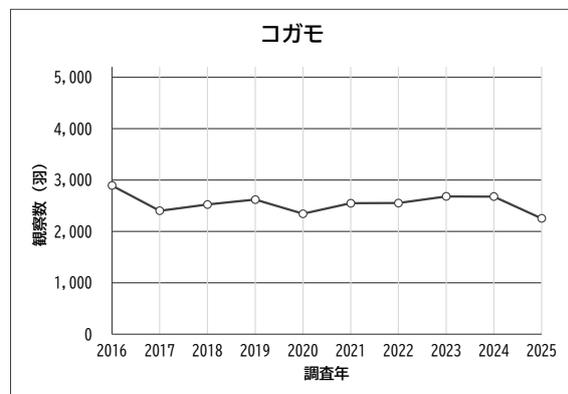
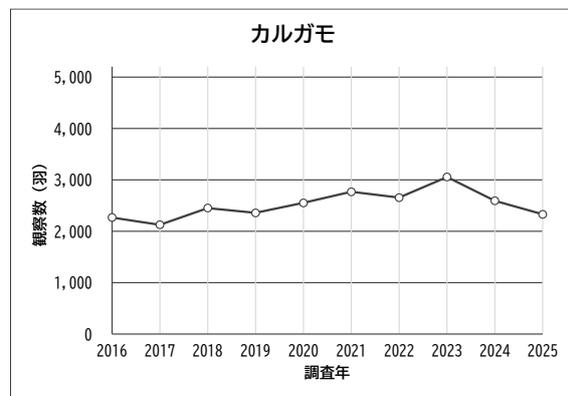
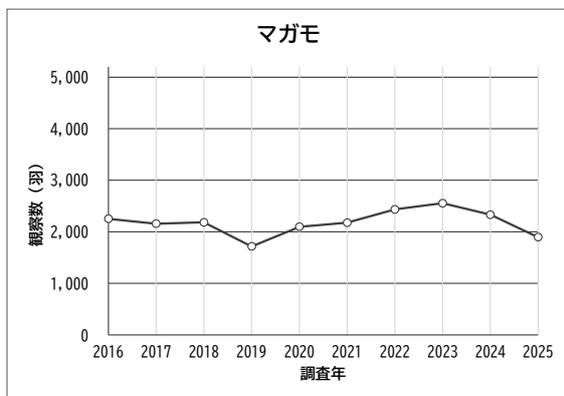
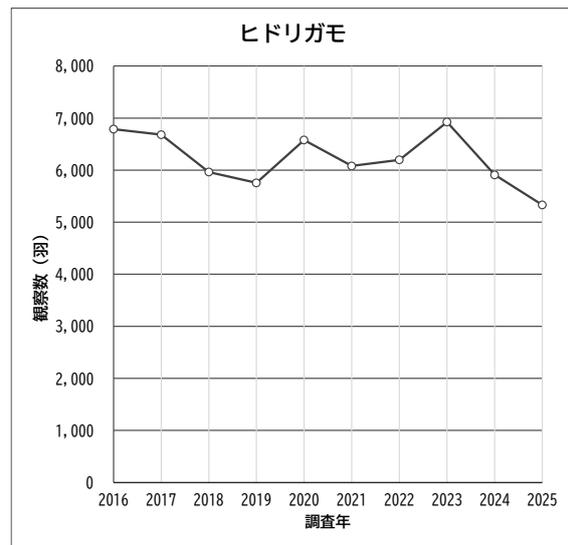
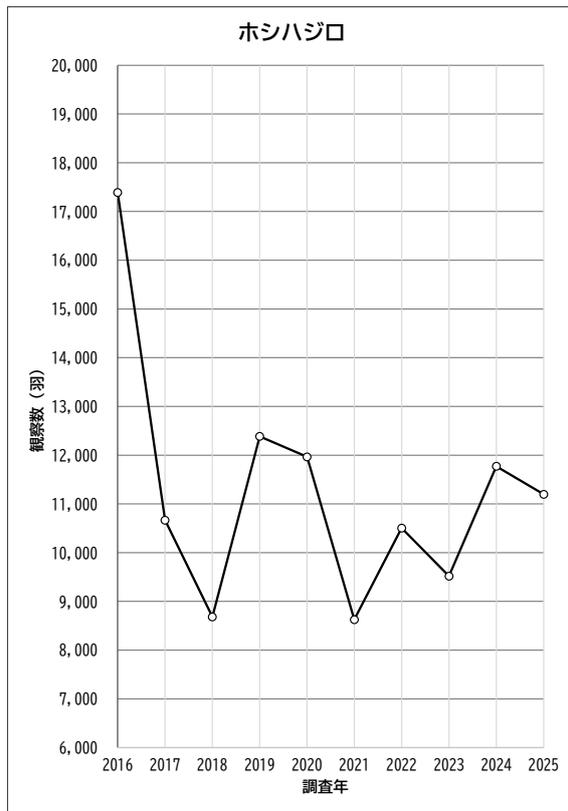


図4(1) 主要カモ類の観察数の推移(種別グラフ)

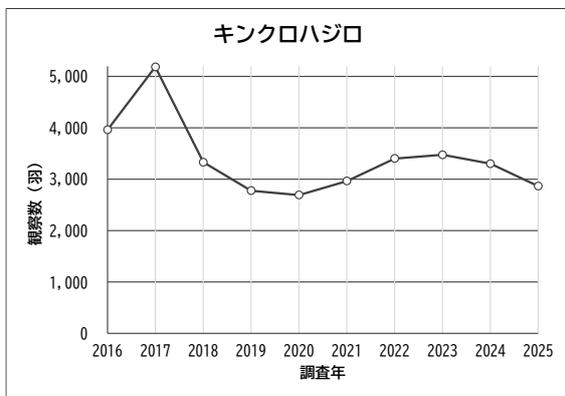
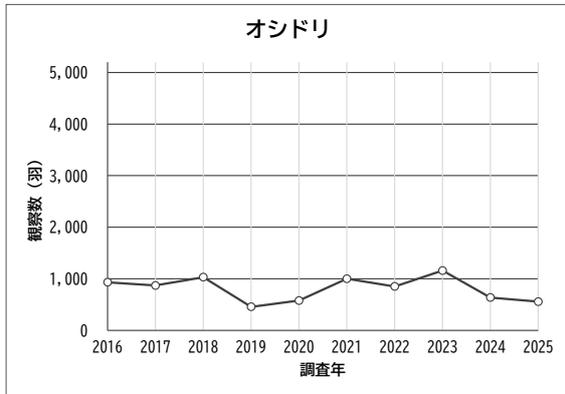


図 4 (2) 主要カモ類の観察数の推移 (種別グラフ)

(2) ハクチョウ類、ガン類

ガン類・ハクチョウ類は観察されませんでした。

6 カワウについて

今回は、176地点で3,872羽が観察されました。

2018年以降、観察数は増減を繰り返しており、今回は昨年より約800羽増加しました。

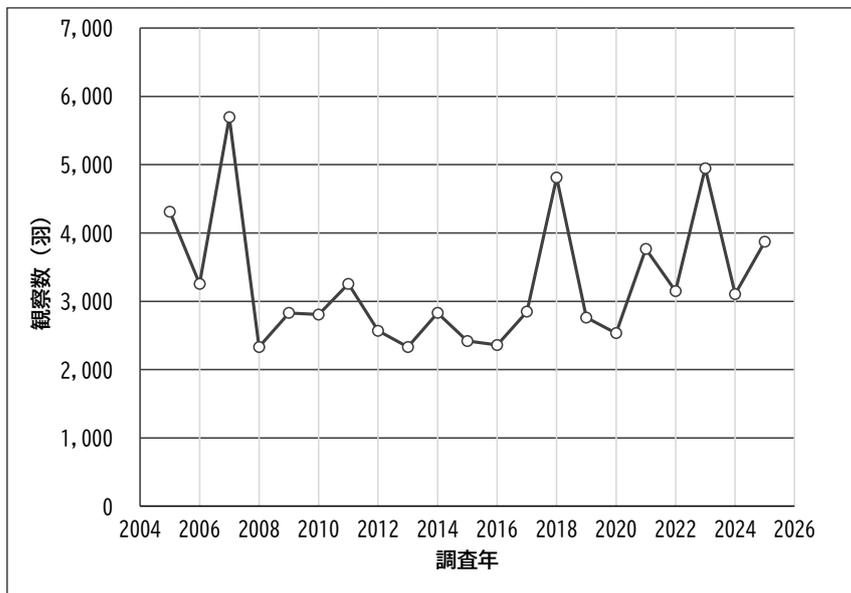


図5 カワウの観察数の推移

7 オオバンについて

今回は、221地点で3,825羽が観察されました。

2020年以降観察数は増加傾向にありましたが、昨年大幅に減少、今回は昨年より約1,300羽増加しました。

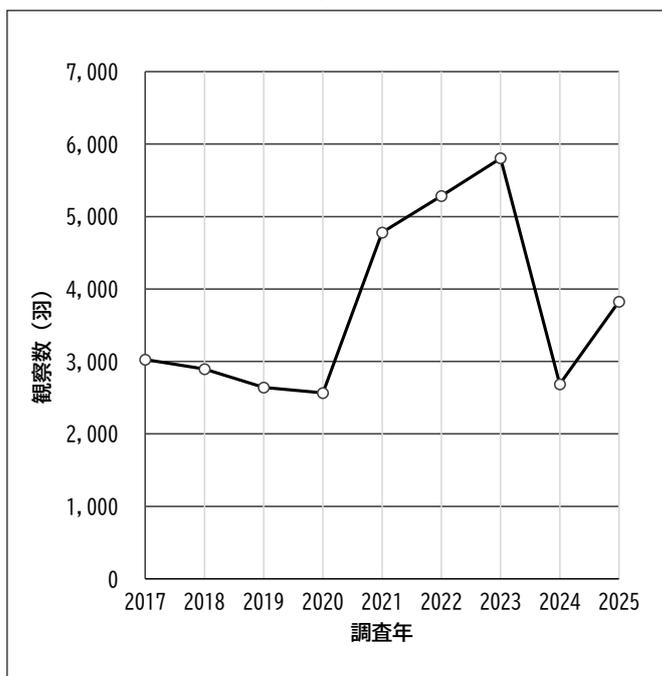


図6 オオバンの観察数の推移